

発行 習志野市国際交流協会
 千葉県習志野市津田沼 5-12-12
 サンロード津田沼 6F 〒275-0016
 Tel&Fax 047-452-2650
 http://www.nia08.com/
 (Email)niasquare@m.jcnnet.jp

主な内容 CONTENTS

- アラバマ青少年合唱団が5月に来習、コンサートを開催します
- 第7回ふれあい祭が開かれました
- 平成26年度文化講演会が開かれました

詳しい記事、およびカラー版がNIAホームページからご覧になれます

アラバマ青少年合唱団が5月に来習、 習志野高等学校とジョイントコンサートを開催します

タスカルーサ市に本拠を置く「アラバマ青少年合唱団」(The Alabama Choir School)は平成27年5月27日(水)に来日し、5月29日(金)に習志野文化ホールで創立30周年記念コンサートを開催します。

アラバマ青少年合唱団は、1995年タスカルーサ少年合唱団として創設されました。1992年、初の海外ツアーに向けてアラバマ少年合唱団と名称変更され、1995年に少女コーラスを加え、アラバマ青少年合唱団と名称変更されました。アメリカ国内を始めヨーロッパ等の海外公演でも好評を博しています。

今年2015年に創立30周年を迎えるにあたり、これを記念したコンサートをアジアで最初に習志野市で開催することになりました。この記念コンサート開催にあたって、姉妹都市提携記念行事等で、1988年、1997

年(姉妹都市提携10周年)、2006年(姉妹都市提携20周年)の3回、タスカルーサ市を親善演奏訪問している習志野高等学校吹奏楽部が友情出演することになり、ジョイントコンサートが実現しました。

今回来日する合唱団は、当青少年合唱団の5つのコーラスグループのうち、チェンバー合唱団(日本の小学5年生から中学2年生)とアンバサダー合唱団(日本の中学3年生から高校3年生)からなっています。一行は合唱団員、付添合わせて約120名の大グループで、記念コンサートで合唱を披露することを始め、習志野市内の施設見学、市内学校との交流も図る計画が進められています。

皆様のご来場をお待ちしています。



アラバマ青少年合唱団



習志野高等学校吹奏楽部

アラバマ青少年合唱団創立30周年記念

アラバマ青少年合唱団&習志野高等学校吹奏楽部ジョイントコンサート

日時 平成27年5月29日(金)午後5時開演 (4時30分開場)

場所 習志野文化ホール

入場料 1,000円(全席自由)

販売 販売時期、販売場所につきましては、詳細が決まり次第お知らせします。

共催 習志野市国際交流協会 習志野市

国際宇宙ステーションからの流星観測プロジェクト『メテオ』

千葉工業大学惑星探査研究センター
上席研究員 荒井朋子氏



荒井先生

約46億年前にガスと塵で混沌とした宇宙の中で地球は誕生し、そして約40億年前に地球上の生命が誕生しました。しかし、太陽系の中で生命体が今までに確認されているの

は地球だけです。何故地球だけに生命が生まれ、その種はどこから来たのでしょうか。

地球外の物質を調べるには、落ちてくる地球外天体のかけらを調べる方法です。宇宙から地球に降り注ぐ流星の発光の明るさや、その光を波長毎に分けて調べることでたくさんのが分かります。

このような宇宙からの塵が大気との摩擦により発光する流星を観測しようと千葉工業大学で計画したのが“国際宇宙ステーション (ISS) からの流星観測プロジェクト「メテオ」”です。この観測は国際宇宙ステーションの米国与圧実験棟の窓に超高感度ハイビジョンカメラを取り付けて行います。千葉工業大学ではこの「メテオ」プロジェクトをNASAに提案して受け入れられ、これから約2年間、半自動的に流星観測を実施することとなりました。

国際宇宙ステーションからの流星観測は、地上観測に比べて天候や大気の影響を受けません。しかも2年間に亘る長期観測を行います。国際宇宙ステーションは1日に地球を16周します。1周のうち夜が35分ありますので延べで560分(9時間20分)の間、流星を観測できます。ハイビジョンカメラの高画質データはデータの容量が大きく、国際宇宙ステーションと地球間の通信データ容量の制限から560分の動画データをすべて地上に降ろすことはできません。そのため、独自に開発したソフトウェアを使い、観測した映像から流星が写っている部分だけを切り出し、まとめて、流星映像のみを地上に送信します。流星映像はその日のうちに地上の運用管制室で見ることができます。

宇宙から流星を観測し宇宙と惑星と生命の起源・進化の過程を解明しようとするこの壮大な構想のこのプロジェクトは、2015年6月のロケット打ち上げによって再度チャレンジします。国際宇宙ステーション上のカメラを通しての観測運用は千葉工業大学の惑星探査研究センター内の「メテオ運用管制室」でリアルタイムで行われますが、その成果がこれから期待されます。



大型スクリーンを使った講演

日本ウイスキー 世界一への道

サントリー株式会社
名誉チーフブレNDER 奥水精一氏



奥水氏

今、日本のウイスキーは世界の注目を集めています。世界一という評価もいただくようになりました。でもその評価は私には驚きではありません。近年、海外の主要な

コンペティションで日本のウイスキーがトップを取り続けています。最近私が訪れた海外でも、フランス、ロシア、ウクライナ、カザフスタンなどで、ホテルのバーには以前には見られなかった日本のウイスキーが並んでいました。今急に日本のウイスキーの評価が上がっているのは"日本"という要素があると思います。

ウイスキー作りで重要なのは、いかにいいモルトウイスキーを作るかです。

スコットランドと比べて日本の強みは水です。山崎は昔から名水の里として知られ、白州も良質の水が豊富に得られます。

ウイスキー作りの一番大きなポイントです。また豊かな森と四季の変化。日本は寒暖の差が大きく、熟成が早く進む傾向があります。日本はスコットランドより自然環境に恵まれているともいえます。

ウイスキーは貯蔵熟成が命です。樽を造るために日本ではホワイトオーク以外に、日本に自生するミズナラという木も使います。世界的にも珍しいのですが、私たちは樽を自前で作ります。サントリーの山崎工場では、創業当初は木桶で発酵させていました。その後管理し易さもありステンレスにしたのですが、また木桶へ戻しました。その方が香味が複雑でリッチな酒ができるのです。蒸留釜も一つずつ形が違います。いろいろな原酒を作るためです。また加熱方式は直火の釜にこだわります。伝統的な製法の方が豊かな香味成分をつくりだすようです。1つの製品を作るために20から30種類の原酒をブレンドしますが、ブレンドしてもすぐに出荷はしません。木桶や樽などに戻し、香味を安定させるために製品によっては半年近くもおくのです。

これぐらいの手間ひまかけてで上がるのがウイスキーです。ウイスキーの発祥はアイルランドですが、スコットランド人達の努力によって、今ではウイスキーの本場といわれます。同様に日本人がもっと努力し、世界の評価を維持し続けることができれば、いつかウイスキーは日本の酒であるという時代がくると私は思っています。

平成26年度
文化講演会が
開かれました

